

今さら聞けない看護の根拠

— 子どもによくある病気と基本ケア —

特集にあたって

小児看護の根拠を
考え、知り、伝えることの大切さ

看護の質を高めるために

近年、看護の学術的発展により、「根拠」のある看護 (evidence based nursing) の必要性が謳われている。小児看護においても、実践知を科学的に検証するための研究が多く行われている。しかし、臨床においては、根深く「思い込み」「言い伝え」「部署の伝統」が残り、その根拠を考え、伝える重要性が置き去りにされている印象を受ける。看護師は、基礎教育を修了したばかりの新人看護師への教育や、常に思考の根拠を求められる学士課程の学生の実習指導において、自分自身の看護の「根拠」を的確に伝えることで、臨床での看護の継承や専門性の向上を目指す必要がある。しかし、自分自身が看護技術の方法論や結果論を教わるのみで、根拠を教わる経験をしていないと、その根拠を伝えることが難しいのが現状である。

このような状況で臨床の看護師は、自分が実践している、もしくは先輩から教わった実践方法に、実は疑問をもちながらもなんとなく行っていることがあるのではないだろうか。今、自分が実践している小児看護技術の「根拠」を理解しているようで理解していなかったり、新人看護師や看護学生に質問されても明確に答えることができなかつたりするのではないだろうか。また、根拠に基づいた看護実践であっても、その根拠を理解して実践する場合と、根拠を理解しないまま実践する場合とでは、患者への同じケアとしてかたちに表れたときに大きく異なる。それは、「単なる小児看護技術」となるか「根拠に基づいた小児看護技術」とな

るかであり、その看護の質は大きな差となっていると考える。同時に、その根拠を理解した実践は、手順どおりの型にはまった看護ではなく、「根拠」という幹に沿いながらも患者の個性に合わせた「葉」をつける看護にかたちを変えることができる。さらには、予測不能の事態が起こったときには、根拠を理解していることで間違いに気づき、アクシデントを防ぐことにもつながる。

そこで、本特集では、2年目以上の臨床看護師が、新人看護師や看護学生に教育をする場面で継承してほしい看護の根拠について取り上げた。「とても基本的な内容でなんとなくわかっているけれど、説明を求められると上手に答える自信がない」。そのような項目を取り上げ、今さら聞けない看護の根拠としてまとめた。根拠と自分の実践知を統合させ、より質の高い卓越した実践を行う役割をもつ小児看護専門看護師が、小児看護技術や一般的にみられる小児の疾患のなかから、患者を観察し看護実践を行ううえで見逃してはならない症状とその対応について、さらに臨床で実際に看護実践を行う際のポイントとその根拠についてまとめている。

本特集が、臨床における看護の教育のなかで活用され、根拠に基づいた看護の実践につながることで、小児看護の質を高めることに寄与できることを願っている。

山田咲樹子 Yamada Sakiko

東京女子医科大学病院看護部／小児看護専門看護師